



学校だより

学校教育目標

ふるさとの魅力を発見・発信し、次代を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第9号

令和2年7月29日発行

文責 校長 宮地 浩幸

学校を美しく

子ども達が学習する上で環境はその成果を出すためにとても大切な要素です。本校は子ども達の人数が少ないので、校舎もあまり汚れることはありませんが、掃除をするときには工夫をして行わなければなりません。3階の中学生の教室で、掃除の様子を見て、実に感心させられたことがあります。それは、はじめに、教室全体に水を湿らせた新聞紙を小さくちぎって撒いていきます。一見教室にごみを捨てているようです。しかし、その後教室をまんべんなく掃いていくと当然ごみと一緒に新聞紙も集めるわけですが、教室の床が雑巾がけしたようにきれいになるのです。このような掃除の方法は、家庭科の教科書に書いてあるそうです。学んだことを生活の中で実践してみることでその定着を図ることはとても大切なことです。

また、1階の小学校の教室を見ると子ども達が歯ブラシを使って、ドアのレールの汚れを落としていました。雑巾で取るよりもはるかにきれいに汚れが落ちます。子ども達が工夫をして学校を一生懸命にきれいにすることは徳育の観点から人間性を高めることに寄与すると期待しています。



授業参観，ありがとうございました

7/15（水）の午後から授業参観および保護者懇談会を行いました。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、できるだけ児童生徒や職員以外は来校されるのを控えてもらっていましたが、緊急事態宣言解除後、他県への交流自粛も回復される中、本年度初めての授業参観を行いました。全ての児童生徒の保護者の皆さんに学校へおいでいただき感謝申し上げます。子ども達も保護者の皆さんに参観されて、いつもより意欲的だったような気がします。職員も、張り切っていたような気がします。また、参観後のアンケートでも、子ども達や教職員の頑張りを認めていただく意見が多かったことに安堵しました。お気づきだと思いますが、小学生の授業に、もともと中学校を担当する職員が指導を行っています。これは、教科担任制である中学校の教育課程において、小学生の授業を担当することは、義務教育9カ年のスパンで考えた時に非常に有利な部分でもあります。

前任校では、教育委員会から中学校校区に対して2年間の学力向上の研究指定を受けていました。その中で、小中連携による取り組みを行うようにしていましたが、中学校側でいつも子ども達が小学校ではどのような授業を受けていたかととても気になる場所でした。年間に数回の授業交流会を行いました。なかなかそれだけでは、細かいところがわかりません。もちろん、小学校で学ぶ内容については、教科書を見ればわかりますが、実際にどのような学びを行ってきたか中学校での指導を行うときにとても重要です。また、小学校の先生は担任クラスの全教科の授業をするのが普通なので、自分の専門教科を持



つ中学校の先生との意見の違いなどが現れる場合があります。このようなことを考える時、本校のように小学校、中学校の先生方が相互に乗り入れて、授業を行うとき都合がいい面が多く出てきます。もちろん中学校の先生が小学校の授業をするので、その言い回しなどが難しくなる場合もあると思います。そんなことを子ども達との会話からお気づきになられたら遠慮なくお知らせください。

小学生と中学生の興味ある話題

テレビ会議システムを通して他校とやり取りをする子ども達の話の内容を聞いていると当然ですが中学生になるほど社会への関心ごとが深くなるのを感じます。小学生の合同スピーチでは自分の好きなこととして、ゲームをすることやサッカーをすることを発表してくれました。そして、それぞれの子供達は自分が好きなことを発表し合いました。振り返りとして、発表の仕方が良かったとか、声の大きさが聞きやすかったなど声が上がりました。本校の小学校低学年の児童も勇気を出して発表する姿に周りの人たちが心の中でエールを送っているのが良くわかります。

一方中学生の発表では、先日の九州豪雨の被害を題材に話し合いが進みました。「熊本や大分で起こったことだが同じ九州に住む人間として他人ごとではない。地球温暖化の影響で毎年豪雨が発生しているので、その防止のために一人ひとりができることをやっこう。自分は無駄なプラスチックの使用を抑えるためにエコバック使用を心掛けたい。」というのがその主張です。地球温暖化防止という内容が少し難しかったので、話の展開を豪雨についての感想や被災地救済にできることなど少し自分たちに対して身近な内容に置き換えましたが、新聞記事を題材に中学生の段階で自分の意見を出し合うことは、今後、社会とのつながりの中で学校の学びをどう生かすという内容に関わっていくものであり、とても大切なことだと思います。

中体連、頑張りました

7/17（金）の朝に中体連選手推戴式を行いました。本校にはバドミントン部とテニス部があります。その大会が7/19（土）に実施されることになり、中学3年生にとっては最後の大会になります。部活動は3年間毎日コツコツと練習してきた成果を見せる大会です。職員も小学生も中学生の健闘を称え、エールを送りました（小学生は中学生に折り鶴を贈りました。）。そして、校長として次のことを選手の皆さんにお願いしました。

- ・これまで頑張ってきたことを十分に発揮して悔いのないようにして欲しいこと。
- ・努力は必ず報われる。勝ち負けよりも自分のプレーに納得できるゲームを心掛けて欲しいこと。
- ・加唐中学校の生徒としての自覚と誇りを持って競技して欲しいこと（小さい学校だから、全ての先生方が部活動に関わっていただきました）。勉強もスポーツも頑張る加唐中学校の姿を示してきて欲しいこと。
- ・これまで支えてくれた保護者、地域、先生方への感謝を示すことができるように頑張っていて欲しいこと。

今回、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、応援に行けませんでした。そのため、大会の1週間前からできるだけ、バドミントン部に顔を出し、生徒の様子を窺っていました。顧問の先生の指導のおかげで、大会直前にけがをするようなこともなく、試合本番に臨んでくれました。思うような結果を残すことはできませんでしたが、「試合に出て、これまでで一番楽しかった。」と感想を晴れやかに言ってくれたので、自分がやってきたことを十分発揮できたんだと確信し、ホッとしました。今回の経験は、次の生活の糧になると信じています。

